



グリーンボランティア講座がなな山で開催されました

4月28日(土)、なな山緑地に於いてグリーンボランティア講座が開催されました。昨年は残念ながら雨天でなな山緑地の見学が十分にはできませんでしたが、今回は素晴らしい快晴になりました。



8時半からテントを張りパネル展示をするなどの準備を整え、講習生を待ちました。9時半に第11期講習生25名が集合し講座

がはじまりました。

例年どおり、川添会長の司会で、まず、全員で準備体操をしたのち、高木会長の挨拶、住崎さんのなな山を多摩市に



寄付した経緯や、里山と農家の関わりなどについて、多摩市みどり環境課の松下さんから多摩市の緑化政策について

それぞれお話がありました。次に相田さんの案内と説明でなな山緑地見学に出発しました。西の谷から西の山へ、中の谷から東の山へ進んで、中の山山頂を通って西の山の南斜面を

経由して元の広場に戻るコースで約1時間半をかけてほぼ緑地全体の見学ができました。なな山のあちこちにキンランが満開！木々の新芽が薄く濃く、微妙な彩(いろどり)のグラデーションで林を覆う、言わばこの緑地が一年中で一番美しい季節です。

その中を巡る受講生たちは、説明を熱心に聴き、メモを取ったり、写真を撮ったりしていました。山を移るたび、草本や、

樹木の変化があり、興味は尽きないようでした。「ここは、どの山も綺麗で素晴らしいところだなあ」という言葉があちこちで聞こえました。昼休みに30分も食い込んでしまいましたが、この観察体験によって、なな山緑地の自然を満喫してもらえたものと思います。

午後からは、川添会長により、マント群落など雑木林の成り立ちに関する講義があり、実習として、各々が鎌を持って笹の刈取りを行いました。大勢で取り組むとあっという間に藪がきれいになり受講生たちも達成感を感じ



ているようでした。次に、刈払機の使い方の説明、特に周りにいる人の安全に気を配ることなどの内容の講習に続いて、3班に分かれて刈払機の操作体験が行われ、短い時間ですが全員が刈払機の操作を実地に体験し、最後に砥石を使って鎌の手入れをして講座を終了しました。

参加者全員が熱心に受講し、里山の豊かな自然を全身で感じた様子で、内容の充実した有意義な講座になりました。

《写真》左上=受講生たち 左下=川添会長の講義

右上=東の山で説明する相田さん 右下=キンラン



平成23年度総会開催される

3月25日(日)9:30から、百草団地集会所で「なな山緑地の会」の平成23年度総会が開催されました。出席19名+1団体、委任状15名で総会成立。議長に長尾さんを選出し、議事に入りました。平成23年度活動報告、会計報告、平成24年度役員改選、活動計画、収支予算などが異議なく了承されました。また、今回規約改正で団体会員を設け、エコメッセ府中が団体会員として入会されました。質疑応答では活発な議論があり、10:45、無事終了しました。



なな山緑地 新しい展開を想う

相田 幸一

今年度(H24年度)の活動方針が決まった。

具体的な行動は、日々の活動を通して意見交換しながら実



行していくことになる。会員同士がお互いに意思の疎通を図り、汗をかき、楽しみを見出して活動することが肝要であろう。

ところで、今、私の頭の中にはなな山緑地のこれからの姿が浮かんで消え、消えては浮かんでくる。その辺りを少し整理して記してみたいと思う。

今回は、手をつけたばかりの東の山について私の思いを述べてみよう。

初めに手をつけたのは作業兼観察の道づくりだ。人の背丈を越えるアズマネザサ刈りと株の除去はかなりの大仕事だ。二年越しで一部通れるようになったが目標にはまだ時間がかかる。今後、当面の計画路を開通させて、それからだ。

最近の観察で、その道際にシュンランを数株とエビネの群落を見つけた。これまで抱いていた期待の一端は見事に果たされた。アズマネザサに覆われた未知の林床はまだ多くの期待をはらんでいる。予測は出来ないが希少植物をはじめまだ目に触れない哺乳動物、両生類、昆虫などと僅かに染み出る水路などの発見も考えられる。もう少し詳細な観察を行ってきたい。

倒木の片付け、何時倒れるか分からない枯木の整理、針葉樹・常緑樹で不要な樹木の伐採も考えたい。また、ほとんどが落葉広葉樹であるが、一本一本樹種を確認できればそこにも新たな種類が見つかるかもしれない。

そういう整備作業で考慮しなければならない重点として、この山か山の近くにタヌキが住んでいることをあげなくてはならない。近隣の数軒の方が自宅付近に現れるタヌキを幾度か目撃しているのだ。またかつて中の谷付近でタヌキの死骸を一度見つけている。かなりきれいな状態であった。

タヌキは水辺に近い洞穴や樹木のウロ(洞)・倒木の陰などに家族で生活しているといわれている。雑食で季節に応じた食べ物を摂る。自然の中で不足の時は夜な夜な人家の残飯を漁ったりする。本来は夜行性なのだが、子ダヌキは日中でも時に人家に現れるようだ。こんな時親ダヌキははらして陰で見守っているという観察記録がある。いずれに

しろ人の営みとの共生で生活するたくましい生き物ではあるらしい。人が何をやるかは先刻承知しているということだ。人は逆に、タヌキにだまされたり、はぐらかされたりしないようせいぜい気をつけることだ。

東の山を特徴づけるアズマネザサは多摩丘陵では特別に利用された資材だ。一般的には畑の支柱など農作業に使われることが多かったが、当地ではメケエと呼ばれたメカゴ(目籠)作りはこのネザサを材料とした主要産業であった。現在は伝統工芸のように一部の方が体験的に作り方を教える講座などが開かれている程度になってしまっている。作り手もいないし、宅地開発で肝心のアズマネザサがなくなってきている。正月のどんど焼きで繭玉焼きの支えに使われることと、ささやかなメカゴづくりぐらいにしか使われなくなった。農家も畑も少なくなり僅かに営まれる畑仕事もプラスチック製品にとって替られ、自然素材のアズマネザサを使うことは稀なことになってしまった。しかも少しの利用に足りるだけのアズマネザサも探すのに骨が折れるようになってしまっ

て苦勞している。しかし、この山には大量に残されている。この利用を考えるのも活動の一部に組み入れてもよいのかもしれない。生き物と人の暮らしとが共生できる山、自然生態が維持され人も生き物も安らげる空間と景観を有する山。こんな山を目指して後々に伝えられる森作りに協力して汗を流す。これはきっとやりがいのある楽しい活動になるだろう。



写真 左上=東の山の道作り 右下=新たに見つかったシュンランの株

「なな山の植物 花と実」が完成しました

「なな山の植物1」に続く第2弾として、なな山緑地に成育する29種類の植物の花と実を、セットにして掲載したパンフレットが完成しました。

植物の花と実を同時に見られる楽しく、役に立つ優れものです。ぜひ、お手元に。



「キ」が多い話

永田 美夫



多摩市森木会は気(木)の多い人たちの集まりだそうですが、それなら埼玉県から押しかけ参加の私も、少しは資格がありそうです。

若いころから、英語・スペイン語・中国語と手当たり次第にかじりつき、空手・合気道の道場に通り、断食体験で熱海まで出かけ、砂浜に首まで漬かったこともあります。作家になりたいと夢想して、4畳半の安アパートで夜な夜なアルコールをあおりながら気に入った作家の文章を原稿用紙に書き写していた時期もありました(いまも右の中指にペンダコの痕跡が残っています)。

40代の後半には電話勧誘のおぼちゃんのしつこさに負けて社労士のゼミに通うことになり(これはまあ、気が多いというよりは気が弱い、あるいは気がいいというべきでしょうが)2年間かけて思いがけず合格しました。でも、それだけ。今にして思えばあんな資格は教育産業振興のためのものじゃないかなどと考えています。

一昨年の秋には仕事に生かす当てもないのにフォークリフトの講習に丸4日間通い、ペーパーオペレーターになりました。4日間会社を休むことの言い訳は「フォークの集いに参加するため」としましたけどね。

困ったことにそんな風に手当たり次第手を出して、何とか

形になったものはほとんどありません。どうしてもこれやりたい、この技術を世の中のために生かしたい、などという高い志があるわけでもなく、いつも何かやっていたという、いわば強迫観念に動かされているわけで、その根底には自己愛があると分析しています。気が多いのではなく、「己」が多いのです。

もぐらはミミズを捕まえるために絶えず土を掘っていますが、それは大変なエネルギーを必要とします。そのためには沢山のミミズを食べなければならない。そのためには土を掘り続けなければならない、そのためにはもっとたくさんのミミズを……疲れる話です。

気(己)が多い私も高齢者の仲間入りをするところになって、そこはかとな虚しさを覚えるようになりました。それが、なな山への押しかけ参加の一因でもあります。木のことなどほとんど知らない私ですが、皆さんよろしくご指導ください。

次の原稿は、70歳でバンジージャンプを取行されたという、長尾さんをお願いします。



第7回地域ふれあいフォーラムに参加



1月29日(日)、多摩市くらしと文化部市民活動支援課主催の「第7回地域ふれあいフォーラム」が、ヴィータコミュニティー7階で行われました。

この催しは市民活動団体見本市で、「なな山緑地の会」も参加しました。参加団体は10団体、ブースでのパネル展示と10分間のプレゼンでした。プレゼンでは相田さんが、パワーポイントを使って手際よく「なな山」を紹介しました。同時に「なな山

緑地の会会員募集」のパンフレットを約40枚配布しました。ブースには来場者に対応するべくテーブルとイスが用意されていたため、相田さんと中原さんが対応しました。ブースを訪れた大人は15人でしたが、土地勘のある人は長いこと話をし、子どもは展示した木工品の電車に目を輝かせていました。

夕方には阿部市長が来場し、市長の挨拶で締めくくられました。



なな山日記（活動・観察記録）

とたにえま

<p>No. 181 2012年1月8日(日) 晴れ 気温 11℃ 参加者 23人 新年始動。「なな山だより24号」配布。山始め神事をする。昼は甘酒の差し入れも美味しかった。 ●作業/落ち葉囲いの修理、落葉掃き、柵(入口、道路沿い)修理。</p> 	<p>No. 182 2012年1月29日(日) 晴れ 気温 7℃ 参加者 15人 中止になった22日の代わりの日。快晴だけど風があり寒かったが全員元気に活動した。 ●作業/落ち葉掃き、落ち枝拾い、西の谷から中の谷へホダ木の移動、東の山の枯木の伐倒、チェーンソー目立て。</p> 
<p>No. 183 2012年2月12日(日) 晴れ 気温 10℃ 参加者 20人 広場の枝置き場がきれいになる。お昼はおいしいトン汁♪ ●作業/枝置き場整理、くず掃き、クヌギの植樹計画、薪置き場の整理、周辺清掃。</p> 	<p>No. 184 2012年2月26日(日) 曇り 気温 5℃ 参加者 21人 天気予報では晴れるはずだったが、陽は射さず昼でも5℃と寒い一日だったが、梅の木に花が一輪二輪とほころんでいた。 ●作業/落ち葉掃き、枯木伐倒、枝置き場の土止め作り、マキ割り、クヌギ苗の掘り起し。</p> 
<p>No. 185 2012年3月11日(日) 晴れ 気温 5.5℃ 参加者 20人 「なな山の植物-花と実」と総会開催通知を配布。14:46に大震災の被災者に全員で黙とうする。 ●作業/シイタケ・ナメコの菌打ち、ホダ木作り、クヌギ苗の掘り起し、斜面に植樹、シイタケ収穫、雪で折れたスギの処理、サクラ伐倒。</p> 	<p>No. 186 2012年3月25日(日) 晴れ 気温 15℃ 参加者 22人 総会のあとに活動開始。今年度の活動参加述べ人数は422人(過去最高)となった。 ●作業/シイタケ・ヒラタケの菌打ち、仮伏せ、ジャガイモの植え付け、機械メンテナンス、東の山の道作り、シイタケ収穫。</p> 
<p>南鶴牧小学校の自然観察会 2012年3月28日(水) 晴れ 気温 19℃ 参加者 33人 (児童、保護者 27人, 副校長, 教員 1人, なな山のメンバー 4人,) 風の無い暖かな日和のこの日、多摩センターよりバスで到着。春の花探しを中心テーマに雑木林の自然観察会となる。 ●/広場の花はタンポポ、オオイヌノフグリ、タネツケバナ、ヒメオドリコソウ、ウメ、 ●/山中の花はウグイスカグラ、ヒサカキ、ヒイラギナンテン、アセビ、シュンラン、 キブシ、タチツボスミレなど。 今回の一番の収穫はシュンランの株立ちが数箇所見られたことだった。 ホダギからのシイタケ、ナメコの発生には興奮した様子。自らシイタケの収穫体験をする。</p> 	
<p>No. 187 2012年4月8日(日) 晴れ 気温 15℃ 参加者 17人 ついに春の到来。ヤマザクラが咲き、東の山にはシュンランが。 ●作業/山全体を巡り観察とゴミ拾い。バス通り沿いのヤマザクラをのり面に移植。ホウレンソウの収穫・耕運機作業、ログミルで板作り、東の山の道作り。</p> 	<p>No. 188 2012年4月22日(日) 曇り時々雨 気温 11℃ 参加者 17人 東の山の道作りが着々と進む、どんな植物があるのか楽しみ。 ●作業/緑地内観察、畑作業(サトイモ植え付け)、ログミルで板作り、倉庫整理、機械メンテナンス、机と椅子のメンテナンス、東の山の道作り、法面刈払機作業、側溝掃除。写真はチゴユリ</p> 

お知らせ

●担当の中原さんが、体調を崩されたので、戸谷さんのご協力を得て、またぞろ鎌田が紙面作りをしました。スタイルが元に戻った感じがするのは否めませんがご容赦ください。次号には中原さんが復帰されると思います。なな山は春景色から、さわやかな新緑に移り変わり、東の山での活動も本格化します。皆で力を合わせて取り組んで参りましょう。K

なな山だより 第25号 2012年5月13日発行

発行 かな山緑地の会
 発行責任者 高木直樹
 住所 多摩市和田 1394-13
 ホームページ <http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>
 編集委員 鎌田文雄 中原君代 戸谷恵麻